

他県における小規模校の取組

島根県立津和野高等学校 [県立]

設置学科：普通科・2学級

全校生徒数：190人（男子87,女子103）H27.5.1現在

- ・高齢化率4割を超える人口8000人のまち津和野町にある唯一の高校。
- ・入学者数は平成14年度から平成25年度の11年間で約3分の1の水準にまで減少していたが、平成26、27年度と一気にV字回復し、平成27年度の入試倍率は0.92倍にまで回復。



校舎外観

- ・津和野高校の統廃合も視野に入る危機的な状況のなかで、高校復活の起死回生の一手として、「津和野高校魅力化プロジェクト」をスタート。
- ・津和野高校の最大の強みは、全校生徒約200名という「ちょうどよい」学校規模を活かした、生徒にじっくりと向き合う教育。1クラス25名以下なので、生徒一人ひとりに目を配ることができる上に、各学年3クラス展開なので体育祭、文化祭、球技大会におけるクラス対抗の行事も大いに盛り上がる。さらに学校の先生に加えて、津和野町が雇用し、高校と町営塾に常駐する9名のスタッフのサポートを受けることができる。学生寮も整備。
- ・高校に併設された町営英語塾 HAN-KOH（津和野高生は無料で利用可）では、東京の民間塾で活躍していた塾長、神奈川で公務員として英語で職務をこなしていた講師をはじめ、東京大学や慶應義塾大学の大学院を修了した若手スタッフが在籍。生徒一人ひとりのニーズに合わせて、授業の補習から難関大の受験対策、さらには就職試験対策までカバー。

【進学実績】(H26)

国公立大学：12人（東京農工大、都留文科大、島根大、山口大、島根県立大など）

私立大学：7人（立命館大、広島経済大、岡山理大、日本赤十字広島看護大など）

公立・私立短大：3人（島根県立大学短大ほか）

医療系専門学校：9人（浜田医療センター附属看護大など）

専門学校：4人（広島公務員専門学校など）

その他：4人（職業能力開発大学校、ポリテクカレッジ島根など）

【就職実績】

一般企業：JP西日本、(株)福屋、日本郵便株式会社中国支社、山陰合同銀行、山口銀行

官公庁：自衛隊、山口県警、山口県小中学校事務職員

地元企業：高橋建設(株)、大見工業(株)、徳栄建設(株)



現在の寮生は約50名



外国人に津和野の町を案内する生徒達

島根県立隠岐島前高等学校 [県立]

設置学科：普通科・2学級

全校生徒数：160人（男子76,女子84）H27.5.1現在

- ・昭和34年に島根県立隠岐高校島前分校として開校し、昭和40年に1学年3学級化が実現したのを機に、隠岐島前高校と名称変更した島前地区唯一の高校。学生寮も整備。
- ・入学者数が減少し続け（ピーク時83名 28名）島根県の高校統廃合基準の22名目前であった。そして平成18年、遂に1学年2学級から1学級となり、学校存続への危機感が高まった。



校舎外観

- ・平成20年3月下旬、島前三町村と島前高校が連携し、「隠岐島前高等学校の魅力と永遠の発展の会」を立ち上げ。以降、「隠岐島前高等学校魅力化推進協議会」を中心に構想実現に向けて魅力と活力ある島前高校づくりを推進。
- ・平成22年から、全国から意欲ある生徒を募集する「島留学」を推進。県内中学校へパンフレット送付するほか、県内本土や県外（東京・大阪）での学校説明会開催等、全国から意欲ある生徒を募集するための積極的な活動を実施し、寮や下宿で島外から生徒を受け入れ、意欲ある生徒を確保するため推薦入学制度（12名枠）を導入。
- ・地域の公営塾の新設、「島留学」への助成など地元海士町が手厚い支援を実施。
- ・平成23年からコース制を導入。「特別進学コース」は、国公立大学への進学を目指すコースであり、習熟度別の少人数制授業、添削形式の個別指導、受験対策特別講座等を実施。同年には卒業生の約3割が国公立大学に合格。また、「地域創造コース」は、「地域学」「生活ビジネス基礎」等の授業からなるカリキュラムが生まれ、生徒たちは実際のまちづくりや商品開発などにも取り組んでいる。また、「全国観光プランコンテスト(観光甲子園)」「グランプリ(文部科学大臣賞)」を受賞し、学外でも高い評価を得た。



ニュージーランドのUpper Hutt Collageとの遠隔会議の様子

- ・東京都出身でソニーを退職した「高校魅力化プロデューサー」の岩本悠氏や、倉敷市出身で東京都内IT企業から海士町の地域おこし協力隊へ転身した奥田麻衣子氏（まち・ひと・しごと創生会議委員）と、地域・学校が協働し、コース生や島留学制度の導入を成功させた。

【進学実績】(H23~25)

(国公立大学) 茨城大、金沢大、和歌山大、島根大、高知大、鳥取環境大、島根県立大、山口県立大など

(私立大学) 専修大、慶応義塾大、東京経済大、東洋大、法政大、桜美林大、早稲田大、名古屋商科大、京都産業大、大阪芸術大、桃山学院大、京都造形芸術大、近畿大、神戸学院大、岡山理科大、吉備国際大、山陽学園大、広島経済大など

(短期大学) 島根県立大学短大部、大阪成蹊短期大、美作大学短期大学部など

【就職実績】(H23~25)

(社福) 隠岐共生学園、隠岐汽船(株)、(株)山陰合同銀行、山陰プラント(株)、陸上自衛隊、海上自衛隊など

鹿児島県立与論高等学校 [県立]

設置学科：普通科・2学級

全校生徒数：156人（男子 - , 女子 - ）H27.5.1現在

- ・ 与論島に存在する唯一の高校であり、昭和42年、県立奄美大島高校与論分校として設立され、昭和46年に鹿児島県立与論高等学校として独立した。
- ・ 平成12年度に連携型中高一貫教育校として文部科学省の指定を受けて以降、与論中学校のほとんどの卒業生が与論高校に進学することになり、中高一貫教育は若者の人口流出の抑制につながった。（これまでの島外進学者は年10人程度だったが、3、4人にまで減少。）



与論島

- ・ しかし一方で、平成19年度までの国公立大学合格率は平均4.6%と低迷していた。与論島に学習塾が少ないことや、高校進学時に学力試験を課さない中高一貫教育制度による「勉学への意欲がわきにくい」環境が、その要因であるとの見方が多かった。
- ・ このような中、高校統合再編の話が与論高校にも及んだ。与論高校の存続に対して危機感を抱いた教職員と保護者は、課題であった国公立大学への進学率を上げることで学校の魅力化を図ろうと、学力向上対策に重点的に取り組むこととした。希望者のみ行っていた朝の課外授業は、平成16年度より全校生徒対象とした。また、朝7時30分からの課外授業では1・2年生は基礎学力の定着を目標とした演習を、3年生は就職・進学試験対策を行い、土曜講座では、主に大学や短大の学科受験に向けた進学受験対策として模擬試験や問題演習などを行った。
- ・ この結果、平成20年度には、それまでの5%未満から14.9%へと大きく国公立大学進学率を飛躍させ、また、平成24年度の大学進学率は26.8%となった。学力向上と中高一貫教育という2つの歯車がうまく噛み合い相乗効果を生み出すことで、与論高校の存続と発展が実現されたといえる。

【進学実績】(H26)

(大学) 茨城大、東京工業大、岡山大、山口大、宮崎大、鹿児島大、琉球大、都留文科大、東洋大、大阪経済大、拓殖大など

(短期大学) 鹿児島県立短期大、東海大学福岡短期大など

(専門学校) 東京都立荏原看護専門学校、鹿児島県立農業大学校、山野美容専門学校など

【就職実績】(H26)

与論町役場、(株)ダイサン、(株)掛谷工務店、国際技研(株)、サトウ食品(株)など



体育祭の様子



授業の様子

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校 [村立]

設置学科：工芸科

全校生徒数：112人（道内 94, 道外 18）

H27. 4. 9 現在

- ・ 昭和 25 年に北海道名寄農業高校音威子府分校として開校し、昭和 28 年には北海道音威子府高校と改称して、名実ともに村立高校となった。都市から遠距離にある定時制高校として初期には十分その役割を果たしたが、昭和 40 年代になって入学者が激減し、存続の危機を迎えた。
- ・ こうした中、村は高校の魅力化によってこの危機を乗り越えるべく昭和 53 年に「木材加工を主とする工芸・技術教育の推進」を教育振興策と定め、インテリア工芸の定時制高校として新たな挑戦を始めた。
- ・ 平成 14 年、校名を現校名に変更し、全道唯一の工芸科高校として、「工芸コース」と「美術コース」の選択制を導入したことにより、生徒募集が飛躍的に増加することとなった。
- ・ 「工芸コース」では、2 年次には機械を使った木材加工の学習を、3 年次には卒業制作として工芸作品を製作している。また、「美術コース」では、2 年次にデッサンや油彩など基礎的な表現方法を学習し、3 年次には、卒業制作として 100 号の絵画などを制作している。
- ・ 東海大学の先生による授業や、東海大学の恵まれた環境の中で講義を受けるなど、本格的な高大連携を実施している。また、北欧の優れたデザインや教育から多くを学習するほか、スウェーデンのレクサンド高校との姉妹校提携により、生徒派遣や留学生の受入を通じた異文化交流を行っている。
- ・ 平成 24 年度の全生徒数は 118 人で、うち村内出身者は 3 人。ほぼ全員が村外からの生徒であり、寄宿舎で生活している。生徒・教職員とその家族を加えると約 170 人となり、音威子府村の総人口（約 850 人）人口の 2 割を占めている。



校舎内の様子

< 村の財政支出 >

平成 24 年度町一般会計予算 19 億 2,300 万円のうち、校舎等の建築、高校運営に関する助成など、2 億 6,700 万円を村立高校のために支出。うち村の自己財源充当額は 1 億 779 万円。

【進学実績】(H 2 6)

(大学) 長岡造形大学、北海道教育大学岩見沢校、東北芸術工科大学、東海大学札幌校、女子美術大学、大阪芸術大学、京都造形芸術大学、神田外語大学、ものづくり大学など

(短期大学) 光塩女子短期大学

(専門学校等) 北海道職業能力開発大学校、北海道立農業大学校、北海道芸術デザイン専門学校、帯広コア専門学校、札幌こども専門学校、日本工学院北海道専門学校、富山ガラス造形研究所、北海道歯科技術専門学校など

【就職実績】(H 2 6)

北海道庁、陸上自衛隊、音威子府村教育委員会、(株)第一滝本館、硝子工房アートファクトリーなど



全生徒が共同生活する寮での食事の様子



美術コースの授業の様子

北海道三笠高等学校 [市立]

設置学科：食物調理科
 全校生徒数：120人（男子42人、女子78人）H27.5現在

かつては炭鉱で繁栄した山間の街・三笠。高校としてのピークは昭和41年で、生徒数が1,500人だった時期もある。しかし、年々生徒数が減少し、平成19年に閉校が決定。16人が入学した平成21年を最後に生徒の募集を停止した。



調理師コースの生徒達

その後、平成24年3月末をもって北海道立高校を廃校。三笠市が施設を北海道から無償譲渡を受け、普通科から職業学科に転換し、同年4月から三笠市立高校として再スタートを切った。

通学が難しい生徒のために寄宿舎を設置している。

日本の食を支えるリーダーを育成する、市立としては全国的にも珍しい「食物調理科」となった。

三笠高校の食物調理科は、「調理師コース」と「製菓コース」の2コースが設けられ、調理師免許や製菓衛生師国家試験受験資格を得ることができる。調理師やパティシエとしての就職を念頭に置いた授業カリキュラムとなる。

生徒は1学年40人の3年制で全国から受け入れる。北海道教育委員会が平成24年2月に公表した出願状況によれば、募集人員40人に対し出願者総数86人となり、倍率2.2は道内公立高校でもトップであった。

<平成27年度進路状況>

1 進路先

| 区 分 | | 男 | 女 | 計 |
|-------|-----|----|-----|-----|
| 進 路 先 | 就 職 | 4人 | 21人 | 25人 |
| | 進 学 | 5人 | 10人 | 15人 |



校舎外観

2 進路先一覧

| 就 職 | 進 学 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ポムフード (札幌) ・(株)CAKE&CAFE COLLET (札幌) ・(株)もりもと (札幌) ・(株)萬世閣 (札幌) ・一〇ハビルマネジメント(株) (旭川) ・ケイシイシイ (千歳) ・札幌集団給食事業協同組合 (札幌) ・社会福祉法人障がい者支援施設生振の里 (石狩) ・(株)柳月 (音更) ・(株)RUKA (札幌) ・(株)旅行綜研 (千歳) ・(株)ロバ菓子司 (旭川) ・(株)きのとや (札幌) ・ふらのジャム園 (南共済農場 (富良野)) ・(株)アニゼット (札幌) ・レストラン虫狩 (札幌) ・(株)まる起 (札幌) ・とくせん真木(株) (札幌) ・(株)ビー・リガール (札幌) ・(株)ひらまつ (札幌) ・Patisserie cacao10g (札幌) ・(株)エイチピーディ コーポレーション (沖縄) ・海上自衛隊 一般曹候補生 | <ul style="list-style-type: none"> ・北海道文教大学 健康栄養学科 ・酪農学園大学 食と健康学類 管理栄養士コース ・東京家政大学短期大学部 栄養学科 ・函館短期大学 食物栄養学科 ・光塩学園製菓調理専門学校 製菓技術専攻科 ・光塩学園製菓調理専門学校 調理技術専攻科 ・札幌ベルエポック製菓調理専門学校 パティシエ科 ・エコール辻東京辻調理技術マネジメントカレッジ ・エコール辻東京辻フランス・イタリア料理マスターカレッジ ・エコール辻大阪辻日本料理マスターカレッジ ・エコール辻大阪辻製菓マスターカレッジ ・国際フード製菓専門学校製菓製パン科2年制 ・北海道情報専門学校マルチメディアCG科 |



製菓コース・生徒達の様子



寮の様子

その他参考

鹿児島県立^{おおくち}大^ち口高等学校 … 難関大学合格者等への奨励金制度の創設

- ・平成 26 年 7 月時点、大^ち口高校の 1 学年の定員 120 人に対して入学希望者が 56 人とどまり、県教育委員会から 3 クラスを 2 クラスに削減する方針が示された。
- ・これを受け市は同年 11 月、5,000 万円の基金による奨励金制度（5 年間事業）の創設を実施。これが奏功し、平成 27 年春の入学者は 66 人に増加し、3 クラスを維持することができた。また、平成 28 年春は 1 次募集段階で 78 人が入学を希望し、入学希望者は年々増加している。

< 制度概要 >

（対 象 者）大^ち口高校の生徒

（奨励金の額）国公立大合格者：30 万円 / 人

旧帝国大等の難関大学及びこれに準じる私立大合格者：100 万円 / 人

（これまでの実績）

H 2 6：国公立大に 18 人が合格し、それぞれ 30 万円を支給。

H 2 7：国公立大に 9 人が合格。九州大学合格者 1 人に 100 万円、残り 8 人に 30 万円を支給。